

新川貞之さんの白寿を祝う集い

～広島の文化振興、ユネスコ活動推進、人的交流促進への貢献に感謝～



この5月6日、今年8月に百歳を迎えられる当協会文化部会理事の新川貞之（にいかわ さだゆき）さんの「白寿を祝う集い」が、賑やかに開かれました。集いは、長年親交のある多くの会員が集まり、新川さんの長年の労に感謝する心のこもったお祝いの宴となりました。

集いは、オープニングを飾るくす玉割に続き、亀井章会長の祝辞、記念品贈呈、ご本人からの答辞があり、古田碩永副会長の乾杯で宴会・歓談となりました。

亀井会長、古田副会長、藤井副会長は、挨拶の中で、新川理事が戦後間もない頃から今日まで、広島県の文化事業振興やユネスコ協会の立ち上げ、幅広い人的交流などに果たされた多くの功績をたたえ、感謝の言葉を贈りました。

新川さんは答辞の中で、親交のあった彫刻家・文化勲章受賞者の平櫛田中さん（岡山県井原市出身、広島県福山市の平櫛家に養子に）が、107歳で亡くなるまで、現役の彫刻家として活躍された、人となりを紹介しながら、田中の名言とも言われる「60、70は鼻たれ小僧、男盛りは100から100から、わしもこれから、これから」のように、「私も頑張ります」と元気一杯の笑顔で決意を話され、会場内を盛り上げて下さいました。新川さんの逞しい「男ぶり」に、参加者が逆に元気を頂いた「白寿を祝う集い」となりました。ありがとうございました。



新川さん、これからもよろしくお願ひします。

新川ファン一同